

---

# 扇風機

考える人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

扇風機

### 【Nコード】

N3356H

### 【作者名】

考える人

### 【あらすじ】

暑い季節に風を感じていたい男のために作った詩です。

扇風機のスイッチを入れるのは  
心に風を感じていたいから  
静かな風、強い風  
気分に合わせてコロコロ変える  
夏はまだ、始まったばかり

予測の出来ない風を求め  
散歩という名の旅に出る  
日陰という名のオアシス求め  
彷徨い歩く僕がいる  
辿り着いたら、こっちのものさ  
夏を好きな男になろう

憎たらしかった太陽に

今は素直に、感謝しよう  
ここまで僕らが来れたのは  
全部、あなたのお陰です

うるさいぐらいのセミたちに  
今は素直に、敬意込める  
あの頃の懐かしい記憶が  
いつも夏の色を帯びてるのは  
全部、君らのお陰です

これからの夏に  
確かな淡い期待しよう

扇風機のスイッチを切ったら  
世界が静寂に包まれた  
僕が今いるこの場所に  
何の意味もないかのように

それでも君が、どこかにいる  
それでも地球は回ってる  
網戸を抜ける小さな風  
夏はまだ、始まったばかり

仕事以外の時と場所で  
汗だくになるのは勘弁だ  
公園のベンチに腰を下ろして  
ボールを追い回す子供たちを見ていた

向こうのベンチのばあさんは

どうやら僕を見ている様子  
とても穏やかな微笑みで

『あなたにとつちや、一緒なんだろう』  
囁くようにそう呟いて  
僕は静かにその場を去った

どこからか、ソースの匂いがしてる  
お好み焼きか焼きソバか  
どっちにしる、ハズレはない  
僕が作らなければだけど

これからの夏に  
確かな淡い期待しよう

風を感じてる  
もうすぐ、君と会える

憎たらしかった太陽に  
今は素直に、感謝しよう  
ここまで僕らが来れたのは  
全部、あなたのお陰です

うるさいぐらいのセミたちに  
今は素直に、敬意込める  
あの頃の懐かしい記憶が  
いつも夏の色を帯びてるのは  
全部、君らのお陰です

今日もダラダラ過ごす君に  
今は素直に、感謝しよう  
僕が夏を楽しんでいられるのは  
多分、君のお陰です

これからの夏に  
確かな淡い期待しよう

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3356h/>

---

扇風機

2010年11月27日19時20分発行